

令和2年度

上板中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的・対話的な活動を積極的に取り入れた授業内容の工夫改善
- 家庭学習の習慣化と自主学習の内容充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 瀬尾 智陽	委員 教務主任:齋藤雅人、研修主任:瀬尾智陽、生徒指導主事:津崎浩平、 人権教育主事:齋藤雅人、進路指導主事:秋山純、保健主事:小川美和、 各学年主任、各教科主任
----------------------------	---

校長

富永 浩史



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、生徒・教員へのアンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得に関しては、支援策を講ずることにより、ある一定の定着がみられる。 ●学力の二極化が顕著であり、一斉指導だけでは十分な成果が得られていない傾向にある。ITの活用など、個々の学力に応じた指導が必要である。	・各教科の基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができる。 ・集中して授業に取り組むことができる。	・小テストを繰り返し実施し、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。 ・テスト前に「レッツスタディー」、長期休業日中に「サマー・ウインタースクール」を実施し、個別指導をする。 ・「めあて」、「ながれ」、「まとめ」、「ふりかえり」を意識させ、授業展開・内容を理解させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを持ち、書くこと・話すことができるようになってきている。 ●友達の意見を聞き、自分の考えを説明する力や文章に表現する力が十分でない生徒もいる。また、既習内容を活用できていない生徒も多い。各教科において、アクティブ・ラーニングを取り入れる必要がある。	・理由や根拠を明らかにし、自分の考えを豊かに表現することができる。 ・アクティブ・ラーニングを通して、課題解決方法を考えることができる。	・理由や根拠を明らかにし、課題を追求する授業を進める。 ・生活記録や様々な行事の感想文等、「文章表現課題」を取り入れ、原稿用紙の使い方も意識させる。 ・授業にアクティブ・ラーニングを取り入れ、既習内容を活用し、課題解決する授業を行う。 ・『すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント』を元に、授業改善を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の態度は概ね良好である。多くの生徒が、学習課題を提出することができている。 ●学習課題を計画的に進めることができている生徒もいる。学習課題を提出できているが、知識・技能の習得に結びついていない生徒もいる。	・学習課題に計画的・積極的に取り組み、学ぶ喜びと分かった実感を持ち、自信をもつことができる。	・チャイム前着席や授業準備を呼びかけ、徹底する。 ・連絡黒板を利用して学習課題を確認させ、家庭で取り組むように指導し、提出させる。 ・定期テスト前には、勉強計画を立てさせる。 ・「ガイド」や「家庭学習の手引き」を作成し、活用させる。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

